



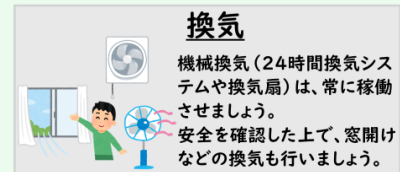
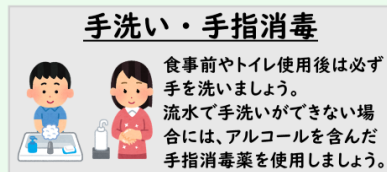
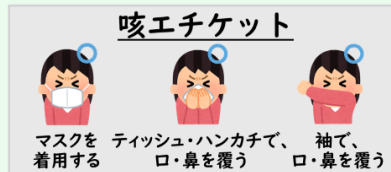
夏の避難所における呼吸器感染症の予防対策

呼吸器感染症は、飛沫等により感染拡大する恐れがあるため、災害時の避難所においては特に注意が必要です。「夏かぜは、こどもがかかるもの」と思われがちですが、夏かぜの原因となるウイルスの型には多くの種類があり、1シーズンに何回もかかる大人も少なくありません。また、新型コロナウイルス感染症は、夏にも流行する傾向がみられます。

○夏に流行する傾向の感染症○

・新型コロナウイルス感染症 ・咽頭結膜熱 ・手足口病 ・ヘルパンギーナ ・RSウイルス感染症

高齢者や基礎疾患のある方が感染した場合は、重症化するおそれがあります。感染対策として、「マスクの着用を含めた咳エチケット」や「手洗い(手指消毒)」、「換気」等が効果的です。



避難所生活では、体調管理に気をつけましょう。

感染症の初期症状としては発熱や咳などがありますが、避難生活や猛暑で体力や免疫力が低下すると、感染リスクも高まります。発熱や咳に加えて、呼吸が苦しい、食事や水分が摂取できないといった症状が見られたら、すぐに医療機関に相談しましょう。こまめな水分補給を忘れずに、避難所で「体調がおかしいな？」と感じた場合は、我慢せずに避難所職員に伝えるようにしましょう。

定点 種別	疾患名	状況	31週(7/27～8/2)		32週(8/3～8/9)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	—	1	0.04	3	0.13
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		38	1.65	27	1.17
	急性呼吸器感染症(ARI)		815	35.43	782	34.00
小児科	RSウイルス感染症		7	0.50	13	0.93
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	4	0.29	4	0.29
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	27	1.93	21	1.50
	感染性胃腸炎	—	31	2.21	36	2.57
	水痘(みずぼうそう)	—	3	0.21	3	0.21
	手足口病	—	20	1.43	11	0.79
	伝染性紅斑(りんご病)	—	3	0.21	0	0.00
	突発性発しん		11	0.79	14	1.00
	ヘルパンギーナ	—	8	0.57	5	0.36
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	2	0.14	1	0.07
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	2	0.40	2	0.40
基幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		0	0.00	1	0.20
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし